

# 派遣者向け参考資料

## 災害支援の視点



静岡県社会福祉士会

災害対策委員会

曾根 允 (そね まこと)

# 災害ソーシャルワークについての結論

- ✓ 手法より、基本的な考え方が大事。
  - ※災害支援(介護)に正解、模範解答はない。
- ✓ 迷ったら、「被災者(利用者)の利益を優先する」
- ✓ 1人でできなくでもチームならできることもある。



# 災害ボランティアの原則

## ✓ 災害ボランティアの原則

### 自己完結

(衣食住などで、被災地に迷惑をかけない)

× 被災者用の飲食物、支援物資は被災者のものです

### 被災者主体

(被災者の利益になるように行動する)

### 協働

(様々な主体が連携)

「できる時に、できる人が、できること」

# 災害時に社会福祉士が必要な理由

✓ 社会福祉士は、日常生活を営むのに支障がある人への援助を行うことを業とした**生活を支える専門職(資格)**である。

その延長として**災害時にも**、被災により生活面への課題を抱えた・増大した人への支援を行う。

⇒だから、災害時にも社会福祉士の生活支援が必要

✓ 災害時には、生活上の課題を抱えた人が、突如として爆発的に発生するとともに、災害時要援護者など平時から生活支援を必要とする人のへの支援の必要性はより一層高まる。

⇒だから、学びや外部支援の活用が必要！

# 災害ソーシャルワークとは

- ✓ 災害時においても**ソーシャルワークや目的や方法は基本的には変わらない**ものの、災害時のニーズは災害規模や時期、地域の状況によって異なり、求められるソーシャルワークの支援内容も異なり、柔軟な対応が必要である。

\* 上野谷加代子 監修・共著「災害ソーシャルワーク入門」中央法規出版(2013)

- ⇒ **自己決定、主体性、個別性の尊重**  
**原則・大切なことは普段と変わらない。**

# 災害ソーシャルワークの方法

- ✓ 災害ソーシャルワークの具体的な方法は**多岐にわたり**、また避難所生活・仮設住宅・復興住宅といった**フェーズ・時系列**で**違った支援が**、求められる。  
(しかも短期集中、ニーズ件数が爆発的に増加)
- ✓ 災害時には、状況に合わせ、**あらゆるソーシャルワーク機能・スキルを発揮することが求められ**、その期待に応えるためには平時からの備え・研鑽が重要となる。

# 災害に想定される被災者ニーズの時系列変化に応じた ソーシャルワークの内容・方法

時期	災害以前	被災直後 ～1週間	～半年	～数年	～長期
場面	地域	救出・避難	避難所	仮設住宅	復興住宅、 自宅再建
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災への関心喚起の啓発活動</li> <li>・地域組織づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者の安否確認</li> <li>・発見した要援護者のサービスの橋渡しとモニタリング</li> <li>・ボランティア・NPO等のコーディネート</li> <li>・他支援組織や他専門職との連携、後方支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ再構築</li> <li>・見守り体制の構築</li> </ul>	
方法・機能	啓発・教育／組織化／ネットワーキング	アウトリーチ／ニーズキャッチ／アセスメント／プランニング／ネットワーキング／チームケア／コーディネート／資源開発／組織化／モニタリング／エンパワメント／アドボカシー／評価			

\* 川上富雄 共著「災害ソーシャルワーク入門」中央法規出版(2013)

## そもそもの大事な視点 (経験から)

- ✓ 災害ボランティアセンターの理念は「被災者主体」、「地元主体」、「協働」。
- ✓ がれきや泥を見るのではなく、そこで暮らしてきた人の生活状況を見る。(アセスメントする。)  
ex. 実例 何度も電話してくるおじいさん。
- ✓ 「件数を処理する」という意識になりがち。

⇒ 大切なのは、「その人を支える」視点



## ニーズキャッチ、アウトリーチ（経験から）

- ✓ 窓口で待っているだけではニーズは来ない。
- ✓ **在宅避難者**も被災者である。
- ✓ 雑談の中からニーズが拾えることもある。
- ✓ 傾聴に努める。話を遮らない。
- ✓ ニーズとデマンドの違いを意識して話を聞く  
(隣の人が大変！ ⇒ 本人も大変だった.... etc)



## 被災者に対して意識すべきこと（経験から）

- ✓ 被災者の気持ち・心の奥の底の痛みに寄添い、意向を尊重しましょう。  
外部支援者は見られている、ことを意識した「ふるまい」
- ✓ 「してあげる」ではなく、「共に協力する」精神で活動しましょう。
- ✓ 被災者や地元支援者の負担となるような、言動や行動（活動の押しつけ等）は控えましょう。

## 外部支援者として意識すべきこと（基本的なこと）

- ✓ 外部支援は、行ける時に行ける人が赴く。
- ✓ 外部支援者同士の連携、引き継ぎで地元負担をかけないように心がける。
- ✓ 外部支援者のほうが熱くなりがち。押し付けない。地元支援者も、被災者である。
- ✓ 「提案地獄」に陥らせない。武勇伝を語らない。